

事業名		代表者 所属	山口大学大学院 創成科学研究科
17 KJ-013. おもしろワクワク化学の世界 ー'17 山口化学展		代表者	教授 鬼村謙二郎
		開催地	山陽小野田市
		助成金額	15 万円
活動概要	<p>日時 平成 29 年 8 月 25 日(金)～8 月 27 日(日) 10:00～17:00(最終日のみ 16:00 まで)</p> <p>場所 おのだサンパーク 大催事場(山陽小野田市)</p> <p>対象 未就学児、小中学生およびその保護者、高校生、大学生、一般</p> <p>参加者(人) 3499 名</p> <p>内訳 未就学児 約 700 名、小学生 約 910 名、中学生以上の一般 約 1890 名</p> <p>内容 山口県内の化学系企業7社、山口東京理科大学工学部2研究室、宇部工業高等専門学校、宇部高校、徳山高校、山口大学理学部3研究室、工学部から7研究室、計22団体・研究室が化学をテーマとした展示や体験できる23ブースを設置し実施した。</p>		

事業の目的・ねらい

科学技術によるイノベーション(技術革新)の重要性は一層増加しており、大学における専門教育や企業による高度技術開発のみならず多くの市民、特に未来の研究者・技術者となる子供たちへの科学教育が重視されている。一方、化学と化学技術は産業の基盤技術を支えると共に、社会の発展に大きな役割を果たしてきた。化学技術により生み出される数々の「もの」が日常の快適な暮らしを支えている。21 世紀においては、科学基盤技術の一層の高度化と共に、持続的な社会の発展と環境・資源・エネルギー・食料・生命・健康等の全地球的課題の解決のために、化学技術は中心的な役割を果たすことが期待されている。しかしながら次世代を担う若い世代の理科離れ、ひいては化学離れが憂慮されている。化学技術の重要性と素晴らしさを、これから技術立国日本を担う青少年に訴え、正しい理解を求めると共に、化学本来の面白さや不思議さを伝えることにより、夢を与える必要が有る。それにより、将来、化学の分野に進む優秀な人材の育成も可能となる。このような目的のもとに、日本化学会中国四国支部では、(公財)徳山科学技術振興財団の協力を得て、青少年の化学や実験に対する好奇心や理解を深めるために平成 5 年より毎年、『化学展』を中国四国の1都市で開催してきた。本化学展では、青少年(主として小学生・中学生)に対して科学技術、特に化学と化学技術、並びに我々の日常の快適な暮らしを支える科学の重要性や素晴らしさを、パネルや実物の展示、デモンストレーション(演示実験)、体験実験等により紹介する。

本事業では化学技術の重要性と素晴らしさを 21 世紀の未来を担う青少年に訴え、子供達やその保護者、一般の大人にも正しい理解を求めると共に、化学本来の面白さや不思議さを伝えることにより、夢を与えることを目的とする。この化学展により、子供達の素朴な疑問や好奇心を感動につなげる機会を提供する共に、大人の方々の化学や化学技術に対する認識を新たにしてもらうことを目的としている。

事業の概要

「おもしろワクワク化学の世界ー'17 山口化学展」(主催:日本化学会中国四国支部、共催:徳山科学技術振興財団、山口東京理科大学、山口大学、理学部、工学部)は次世代を担う子供たちに“わたしたちを支える化学技術”の重要性、不思議さ、面白さ、を分かり易く伝えることを目的としている。化学展は毎年中国・四国地区の大学が各県持ち回りで実施しており、山口県での開催は、2008 年以降 9 年ぶり、4 回目の開催となった。

'17 山口化学展では山口県内の化学系企業7社、山口東京理科大学2研究室、宇部工業高等専門学校、宇部高校、徳山高校、山口大学理学部3研究室、工学部応用化学科から3研究室、循環環境工学科から4研究室、計22団体・研究室が化学をテーマとした展示や体験できる23ブースを設置し開催した。

成果・効果

開催当日は開場と同時に小学生や保護者が来場し、3日間で約3500名が来場した。各ブースで実験を体験すると押されるスタンプラリーを実施し、出展企業、協賛からの景品や山口大学からのヤマミィグッズが来場者に配られ、子供たちも喜んでいて、また多くのメディアからの取材もあり、来場者からはテレビを見て来たとの声も多く聞かれた。

来場者のアンケートで面白かった実験ブースの上位には「海藻から人工イクラをつくろう!!」、「スライムであそぼう!!」、「『カルメラ焼き』を作ってみよう」、「きれいな色のスライムを作ろう」、「電気でアルミ板をにじ色にする」などの子供たちが実際に手を動かしたり触ったりすることのできる“体験型テーマ”であり、多くの来場者が訪れた。アンケートでは化学の魅力を再発見した、毎年開催して欲しい、山口県東部でも開催して欲しいなどの意見が聞かれた。また山口化学展の開催情報元は何かとの問いでは「ポスター、チラシを見た」が全体の43%と最も多く、貴財団の助成金で作成したチラシを小中学生や各家庭に配布した広報効果が活かされた。

山口化学展が子供たちに科学を体験する楽しさや興味を持って成長し、将来、科学者や技術者を目指すきっかけとなり、大人たちにとっても化学や山口県の魅力を再発見してもらえる機会となることを願っている。



会場の様子



海藻から人工イクラをつくろう!!



スライムであそぼう!!



電気でアルミ板をにじ色にする